



サンシュユ

140 編は端書に 指揮者によって。賛歌。ダビデの詩 とあり、やはり、壮大に歌われた賛歌と思われます。

6 連からなる詩編ですが、1 連から 5 連までは苦しみ、怒りが続いて述べられ、悲痛な思いがひしひしと伝わってきます。これは、敵に包囲された詩人の苦しみと言えます。

1 連は、主よ、さいなむ者からわたしを助け出し／不法の者から救い出してください。(1) と救いを求める祈りから始まっています。彼らは心に悪事を謀り／絶え間なく戦いを挑んできます。(3) と、正当な理由なく、戦いを挑んできて、詩人をさいなんでいます。彼らの武器は、舌を蛇のように鋭くし／蝮の毒を唇に含んでいます。(4) とあるように、罵倒、侮蔑、嘘、名誉棄損、詐欺、陰謀、ごまかし、へつらい、フェイク等、あらゆる悪意に

満ちた言葉による暴力です。その暴力を用いて、不法の者は戦いを挑んでくるのです。

2 連は、主よ、主に逆らう者の手からわたしを守り／不法の者から救い出してください(5) とあるように、詩人を さいなむ者 は、主に逆らう者 と詩人は捉え、救いを求めています。彼らは わたしの歩みを突き落とそうと謀っている者(5) であり、わたしの行く道に落とし穴を掘っています。(6) と、述べています。詩人の道とは、主への信頼と信仰によって進もうとする道です。それを阻む者は 主に逆らう者 なのです。

3 連は、詩人が唯一の信頼する方として、主にわたしは申します／「あなたはわたしの神」と。主よ、嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。(7) と、告白し、救いを願い求めて祈りを捧げています。そして、主よ、わたしの神よ、救いの力よ／わたしが武器を執る日／先頭に立ってわたしを守ってください。(8) と、決定的な時を迎えねばならない時の願いを申し述べています。

4 連は、神が報復される内容として、主に逆らう者に欲望を満たすことを許さず／たくらみを遂げさせず／誇ることを許さないでください。(9) とあります。つまり 不法の者 とは、他者へ欲望を抱き、謀略を抱き、傲慢に振舞う者です。

5 連は、不法の者 に対する詩人の思いです。わたしを包囲する者は／自分の唇の毒を頭にかぶるがよい。火の雨がその上に降り注ぎ／泥沼に沈められ／再び立ち上がることのないように。(11)

6 連は、詩人の揺るがない信仰です。わたしは知っています／主は必ず、貧しい人の訴えを取り上げ／乏しい人のために裁きをしてくださることを。主に従う人は御名に感謝をささげ／正しい人は／御前に座ることができるでしょう。(13) 詩人は 貧しい人／正しい人 と自らを表現しています。貧しさは自明ですが、正しさは社会的に公正性が求められる事柄でしょう。現在、ロシアのウクライナ侵攻という 戦い が目の前で行われています。140 編は、大昔の 戦い を、フラッシュバックしたように、目の前に描き出しているように思います。私もロシア・ウクライナの講和を心から祈ります。

関連讚美歌がありませんので、21-371「このこどもたちが」 <https://www.youtube.com/watch?v=6svD3STZB7w> を平和を祈り求めつつ、賛美したいと思います。ジュネーブ詩編歌はピオラ・ダ・ガンバの演奏による小品です。<https://www.youtube.com/watch?v=X0IZy13M2nU&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=140>